

【第 3 回教育大綱・振興基本計画策定委員会で出された意見】

- ①「志をもつ子」から「ひとづくり」という言葉に変わったが、基本方針の文言そのものが、子どもを念頭に置いた考え方になっているのではないか。（具体的には基本方針の 2 ページ、タイトル下「市民一人ひとりが、自らの道を選び社会へはばたいていくため」という部分。）広く「ひとづくり」ということを考えたときに、基本方針の文言がこれでよいのかどうか、全体を通してもう一度検討してはどうか。
- ②「徳を啓く」という柱の中の人権教育について、最近の社会情勢の中で重要なキーワードになっている、「多様性への理解」や「創造性を育む」という観点からの検討がどの程度あったのか。また、それがどのように反映されているのか。文言として計画に盛り込まなくてもよいかどうか。
- ③今後 5 年間、大綱・計画の進捗状況をどのように確認、評価していくのか、策定委員会が評価や見直しにどのように関わっていくのかという計画を立てる必要がある。（策定に関わっているので、見直しにも携わる必要があるのではないか）
また、指標の見直しはこれまで中間年に行っていたが、随時見直しを行う必要があるのではないか。
- ④見直しの際に、現在の目標が妥当かどうかということを話し合い、関係者が方向性を共有できる場が増えることが重要だと思う。
- ⑤基本方針の中に「鳥取らしさ」という文言があるが、鳥取らしさとはどのようなことだととらえているのか。知・徳・体のそれぞれの分野で改めて確認してほしい。
- ⑥基本計画 P 23 の地区公民館事業の取り組み評価の部分について、今年はコロナの影響で社会教育に関する事業で中止になるものが多く、評価することが難しい状況にある。次年度もコロナが続くことが予想されるが、それについてどのように評価を行うなどの方向性は示されているか。
- ⑦コロナの収束が見込めない中で、5 年間の計画が現状のままで実行できるのか。例えば、グローバルに関する内容は実現が難しいのではないかと思う。「教員の英語力の向上」というように、現在の目標に代わるもので、コロナの時代であっても実現できるような内容も考えておくことが必要であると思う。

- ⑧コロナで実現できないことが今後出てくる可能性を考えて、コロナの状況に応じて見直すというような内容を大綱・計画のどこかに記しておくといよいのではないか。
- ⑨P28 推進施策3 歴史と文化が息づくふるさとの創生について、文化財課で鳥取市の各地域の文化と歴史について具体的に小冊子を作成する計画をしているが、この冊子を少なくとも各学校に1冊ずつ配布し、各地域の文化と歴史について知ることができるようにしてほしい。
→公民館においても、現地学習の際にとっても重要な資料となるため、各地区の公民館に小冊子を配布してほしい。
- ⑩文化財や福祉の内容について、各課だけで計画を立てるのではなく、市長部局と協議し内容を検討すべきではないか。これまで協議されていないということであれば、今後連携をとって進めてほしい。